

## とまこまい広域農業協同組合 第17回通常総代会

とまこまい広域農業協同組合の第17回通常総代会が、本町で盛会に開催されますことを、心からお慶び申し上げますとともに、近隣各市町から多くの総代にお越しをいただき、心からご歓迎を申し上げます。皆様方には、日頃から安全・安心な食の安定供給と農業の持続的発展のためそれぞれの地域においてご活躍をいただいておりますことに、心から敬意を表する次第であります。

ただ今、各賞の表彰がありました。報徳善行賞を授与された故荒谷広さんには、改めてご生前のご努力に敬意を表しますとともに、衷心より感謝申し上げます。また、共励会表彰の受賞者の皆さまにも心からお祝いを申し上げます。

昨年の作況状況は、天候の周期的な変動が大きかったものの、台風被害などもなく、全体を通じて豊穰の出来秋となりました。共励会表彰を受けられた方々をはじめ組合員の皆様のご努力の成果であり、誠に喜ばしく今後とも広域ブランドの評価が更に高まるようご研鑽をお願いいたします。

農業・農村を取りまく環境は大きく変化しており、TPP11や日欧EPAの進展に代表される経済のグローバル化と農業従事者の高齢化や担い手不足、人口減少による集落機能の低下や国内市場の縮小の懸念、消費者ニーズの多様化など、さまざまな課題に直面しています。

こうした中、国は、米政策改革や「農林水産業・地域の活力創造プラン」に位置づけた「農業競争力強化プログラム」を基に、生産資材価格の引き下げや流通構造改革、生乳流通制度の見直し、収入保険制度の導入、土地改良制度の見直しなど、国主導の多岐にわたる制度改革が進められており、こうした動きに的確に対応し、地域の実情に沿った農業・農村の振興、活性化に繋げていくことが重要となっています。

特に、半世紀近くにわたる米の生産調整は、平成30年産米から廃止になり、「生産の目安」が設定されたところでございます。北海道の米の作付面積は全国的な消費量減少に伴い抑制傾向で推移しておりますが、一方で北海道産米の品質に対する評価は着実に向上しています。平成29年産米の食味ランキングでは、魚沼産『コシヒカリ』が特AからAにランクを落とす中、『ユメピリカ』『ななつぼし』が引き続き特Aにランクインを果たしました。産地間の競争が激しさを増す中、今後も行政・集荷業者・生産者が一体となったオール北海道体制で高品質米の安定生産を図って行く必要があります。

本町においても、さらなる経営基盤強化に向けて農業農村整備を進めており、その中核施設である厚幌ダムが本年度完成を迎えます。また、関連する国営かんがい排水事業の進捗状況は本年度末で98%超となり、道営ほ場整備は同じく86%超と見込んでいます。これまでの長い年月における多くの関係者のご尽力ご協力に改めて感謝申し上げます。

また、本年度新たに研修農場を開設し、新農業者育成協議会やJAなどの関係機関と連携して新規農業者などの人材育成の取り組みを強化してまいります。その他にも、農村の価値を最大化するためグリーン・ツーリズムや6次産業化、農商工連携など様々なアプローチを行っているところでもありますが、何れにしても働く喜びを実感でき、所得があがる農業を実現することが最大の担い手対策であり、地方創生の恒久

対策であると考えています。農業・農村の持続的発展のため、これまで以上に農業者の主体的な取り組みやJAとの連携強化が重要でありますので、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まだまだ寒い日が続いていますが、農作業がいよいよ本格化してまいります。くれぐれも安全作業と万全な肥培管理に努めていただき、無事、豊穰の秋を迎えていただきたいと思っております。結びに、とまこまい広域農業協同組合のご発展と本日ご参会の皆様のご健勝を心からご祈念申しあげ、挨拶といたします。

平成30年4月11日

厚真町長 宮坂 尚市朗